令和3年度 第１回高知県立山田特別支援学校 学校運営協議会記録

１　開催日時　令和3年7月9日（金） 14:10～15:30　＊授業見学 13:30～14:00
２　場　　所　山田特別支援学校 校長室
３　議　　事　（1）学校長挨拶
（2）自己紹介
（3）学校運営協議会設置について
（4）役員（会長及び副会長）の選出について
（5）令和3年度の学校概要及び学校経営について
（6）意見交換
（7）その他

４　議事概要
（1）学校運営協議会設置について
〇副校長より、学校運営協議会設置要綱についての説明
・設置、協議内容、委員数及び構成、役員の身分等について

（2）会長及び副会長の選出（以下のとおり承認）
〇会　長　岡田 哲夫
〇副会長　徳弘 博国

（3）令和3年度の学校概要及び学校経営について
①学校概要について
・令和3年度児童生徒数、児童生徒数推移、令和3年度市町村別児童生徒数、令和3年度教職員数について
②学校経営について
③スクールミッションについて
「Ⅰ　カリキュラムマネジメントによる授業改善からよりよい教育課程の編成」
〇各教科の内容を重視した授業実践と評価の一体化
・今年度、学習要領の改訂に伴い、教科学習を重視した教育課程を編成した。
・授業の仕方については、児童生徒の実態に合わせて、教科等を合わせた学習を行う等、柔軟に対応していく。
・評価の仕方を「観点別評価」に変更した。
・授業づくり（単元の設定・教え方）については、小・中・高等部が縦割りで、研究している。
〇地域を重視した探究型学習による主体的対話的で深い学びの実現
・香美市全体が「探究型学習」を重視して、小中高大が地域ぐるみで取り組んでいる。
・「探究型学習」とは、教授型ではなく、自分で答えを出すプロセスを大事にする学習である。
・令和元年度から「地域とつながる」をテーマに探究型学習の研究に取り組んでいる。
・「山田特別支援学校の探究型学習のすすめ」を示している。
・高等部３年生から、いつもお世話になっている地域をきれいにしたいという意見が出て、地域の公

園や山田駅のトイレ等の掃除をすることに取り組んだ。

・昨日、高等部 3 年生の「職業科」の取組で、「山特マルシェ」を実施した。この取組は、香美市教育委員会、山田高校、高知工科大学とともに、月に 1 回集まって会（コラボ会議）を行っていることで実現できた事例である。

「Ⅱ 基本行動の確立」

〇規範意識、思いやり、自立心の涵養

・小・中・高等部の児童生徒会による挨拶運動

・道徳教育推進担当者を中心とした道徳科の充実

「Ⅲ 文化・芸術・スポーツの振興」

・今年度は、感染症対策をとって、できるだけ実施する方向で考えている。5 月には運動会を実施できた。

・昨年度、中学部 3 年生の美術で取り組んだ作品が、生命保険会社の来年度のカレンダーの挿絵に採用された。

「Ⅳ ICT 教育の充実」

・1 人に 1 台タブレット端末が配布され、現在、使用に向けて準備中である。

「Ⅴ 働き方改革によるワークライフバランスのとれた学校づくり」

・学習支援員を 2 名配置した。教材づくりや授業の補助、聴覚障害のある教員の手話通訳等の業務に携わっている。

・ICT 支援員については、募集しているが、現在応募がない状況。

（4）意見交換

〈委員〉「山特マルシェ」は、保護者への案内はあったのか？ 行きたかった。

→感染症対策をとって、大々的に広報はしていない。

香美市の商店街や教育委員会にチラシを配布してお知らせした。

〈委員〉委員へ。感染症対策をどのようにすればいいか。

〈委員〉心配はよくわかる。感染対策をどのようにすればよいか、相談いただければ。

「できない」ではなく、どうすればできるかを考えることが大事である。

→2学期に行う予定をしているので、相談させていただく。

「山特マルシェ」は、当日は 40 名くらいの来店があった。 近くの商店街の方や、葬儀社の従業員が全員来てくれた。

〈委員〉保護者がたくさん行くと学習発表会のようになる。目的は地域とつながることだから、保護者の気持ちはよくわかるが…難しいですね。

〈委員〉地域に出かけていくことは素晴らしいことですね。

校長の説明で香美市の教育委員会や工科大と月に 1 回会をもっているとあったが、ありがたいことであるが、そのようなことは他の市町村にあるのか？（白川委員へ）

〈委員〉あまり聞いたことがない。

香美市は、就学前から大学まで学べる環境がある。

〈委員〉校長から、教科重視の学習について説明があったが。

〈委員〉1 年生の道徳の授業を見させてもらったが、素晴らしいと思った。通常の学校でも参考になる学習方法であると思った。研究しているから、系統的な指導ができているのだと思った。

〈委員〉昔は机に座ることが難しい状況があったが、秋友さんいかがですか。

〈委員〉工科大の生徒に、地域のイベントに参加してもらったり、タブレットの使い方等の勉強会に講師として来てもらったり、ドローンを飛ばしたりしてくれている。工科大の生徒を利用してもいいのでは。

〈委員〉買い物学習などを学校で教育してくれる。家でできない支援を学校でしてくれていてありがたい。

〈委員〉生活の中で学んでいくことが生きる力になる。

知的障害が境界線の子で、「100−7」が答えられない、「1/2+1/3」が計算できない、ケーキが 3 等分できないという事例があった。教科学習をしっかりやってくれたら、このような問題は解決していくのではないかと思う。反省しなさいと言われても、基礎ができていないと何を反省していいかわからない。基礎学習から始めないといけないと感じる。

〈委員〉授業を拝見して、児童生徒が集中して取り組めている。授業づくりの専門性の高さがあってのことだと思う。集中と緩和で、家での様子が心配。

新設学校が必要なほど、保護者の特別支援教育が高まっている。インクルーシブ教育、地域共生社会の理念があるにもかかわらず、保護者としては、一日一歩成長してほしいから、より専門性の高い教育を望んでいる。非常に難しい問題がある。

地域連携室で、柚子の収穫にドローンを飛ばして、学生がカメラをつけて登ってリモートで収穫することが行われている。コミュニティサービスラーニングで、実際に地域の困りごとを解決することで学習に生かすことを工科大の 80 名くらいの学生が協力している。

香美市の ICT 化プロジェクトにも、協力している。このような資源を使うことで、大学生の開発意欲や気づきの学習につながる。両方の理になる。

→ICT 支援員として、工科大の学生にお願いしたいと考えているが、雇用形態が常勤であり時間の制約があるため現在は難しい。1 回いくらの報償費のような形で使えるようにならないかと県に要望しているところである。

〈委員〉今、コロナで学生のバイトが減っている。昨日相談を受けた学生は、1 年間休学して、学費を貯めて来年復学すると言っていた。声を掛けていいですか。

→是非お願いしたい。

〈委員〉地元の資源の活用を行うために、雇用形態の見直し等を提言してもよいのでは。

〈委員〉山田特別支援学校は先進的でチャレンジングで素晴らしい学校だと感じている。防災教育もされているし、地域に出て地域との交流を通して主体的に学んでいく取り組みであるとか、道徳教育の研究など、素晴らしい取り組みをされていると思った。地域とのつながりの中で、子供たちが学び育っていく方向性が素晴らしい取り組みだと思う。

(5) その他

〇コロナについて（委員より）

・障害に対する偏見と、コロナに対する偏見は共通していると思う。同調圧力が強い一方で、違うものを排除する傾向がある。これが差別。共通していることは、理解が足りないということと。誰もが障害をもちうるし、誰もがコロナにかかりうる。みんなの問題なのに、自分の問題と違うと考えている。基本的な考え方が変わっていかないと難しい。病院から退院して来る際、本来なら喜ばれるはずが、こっそり退院してくる。障害について、地域の理解が足りなかったが、徐々に理解が高まってきたことで、地域との関係性が良くなっていっている。さらに高めていくためには、交流を深めていくことが大事なのだと思う。

・流行状況は、東京で起こり、大阪で起こり、高知に来た。東京は第 5 波に入っているのに、高知は第 4 波の最後の種火がくすぶっている。インド株は感染力が強いから、オリンピックと合わせてかなり感染が広がると考えられる。第 5 波は今よりもっと厳しいものであると覚悟しなければなら

ない。7 月下旬から 8 月にかけて東京は大変なことになっているだろうと考えられる。それが高知に来るのにあとどれくらいかかるか、8 月の下旬から 9 月にかけてか。

・一番の方法はワクチン接種だが、まだまだワクチンが足らない。高齢者は今月中に完了する方向であるが、まだ全体でいうと高知は 3 割くらい。2 回接種した人が少なくとも 40～50%くらいにならないと下火にならない。インド株は、60%くらいにならないと感染は止まらない。高齢者は感染しても重症化する率はさがってくるが、病院に入って重症化するのは 40 代 50 代あたりになる。その人たちで病院がひっ迫する状況になる。早くにワクチンが打てればと思うが、なかなか間に合わない。

・学校の生徒さんに入ってくる一番危険なルートは、父親である。もう一つのルートは教員からのルートである。流行期の前に注意していないと間に合わない。一番心配なのは寄宿舎に入ってきた場合である。寄宿舎に関わる職員が特に注意が必要である。子供たち同士で感染を広げていくことを防ぐのは難しい。

・子供たちのワクチンについては、ファイザー製の治験により12歳～15歳が追加になった。12歳以下は治験がないので、接種を拡大させることは今のところ無い。

・ワクチンの効果が上がってくるのは秋以降であろう。その頃にならないと効果はわからない。ワクチン接種が進んできたから大丈夫だろうという雰囲気があるが、高齢者の重症化予防はできるが、流行を抑えることはできない。

5 閉　会

〇次回開催について日程を確認（2月に予定）